

2014年度
中間決算説明資料
2014年11月7日



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

内容

I. 2014年度Q1-2連結決算概況

- | | |
|---------|----|
| 1.収支の状況 | P3 |
| 2.財務の状況 | P8 |

II. 2014年度 連結業績予想⇒「今回据置」

- | | |
|-------|-----|
| 1.感応度 | P13 |
|-------|-----|

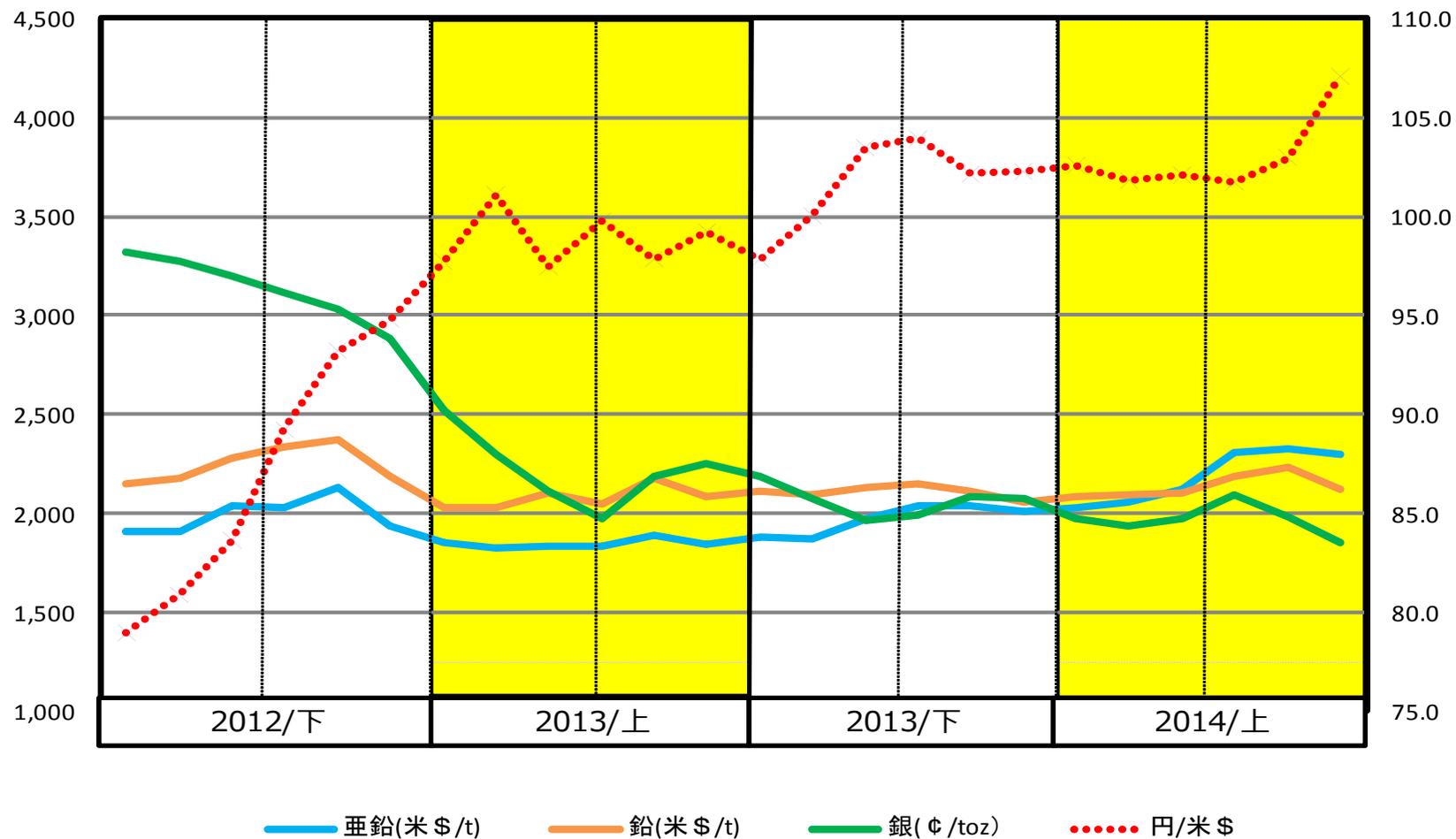
III. 資源セグメントの概況

- | | |
|--------------------|-----|
| 1.セグメント利益の状況 | P14 |
| 2.マリーブル探査プロジェクト | P18 |
| 3.ラスプ鉱山の高品位鉱アクセス状況 | P18 |

I. 2014年度Q1-2連結決算概況

1. 収支の状況(市況推移)

メタル価格



(1)公表ベース比較

		5/9 公表ベース	10/23 修正	実績
市況	亜鉛(米\$/t)	2,100		2,192
	鉛(米\$/t)	2,200		2,139
	銀(米\$/toz)	20.0		19.7
	円/米\$	103.0		103.0
	米\$/豪\$(1-6月)	0.85		0.92
製錬セグメント 主要製品販売量	亜鉛製品(千t)	54.4		51.6
	鉛製品(千t)	43.2		41.2
	電気銀(t)	212		213
資源セグメント CBH社関連(1-6月)	粗鉱処理量(千t)	611		610
	亜鉛精鉱生産量(千dmt)	61.1		60.1
	鉛精鉱生産量(千dmt)	32.6		33.6
収支	売上高(億円)	595	595	603
	営業利益(億円)	33.0	33.0	31.8
	経常利益(億円)	26.0	36.0	35.5
	当期利益(億円)	14.0	19.0	18.9

(2)前年同期比較(市況・販売・生産量)

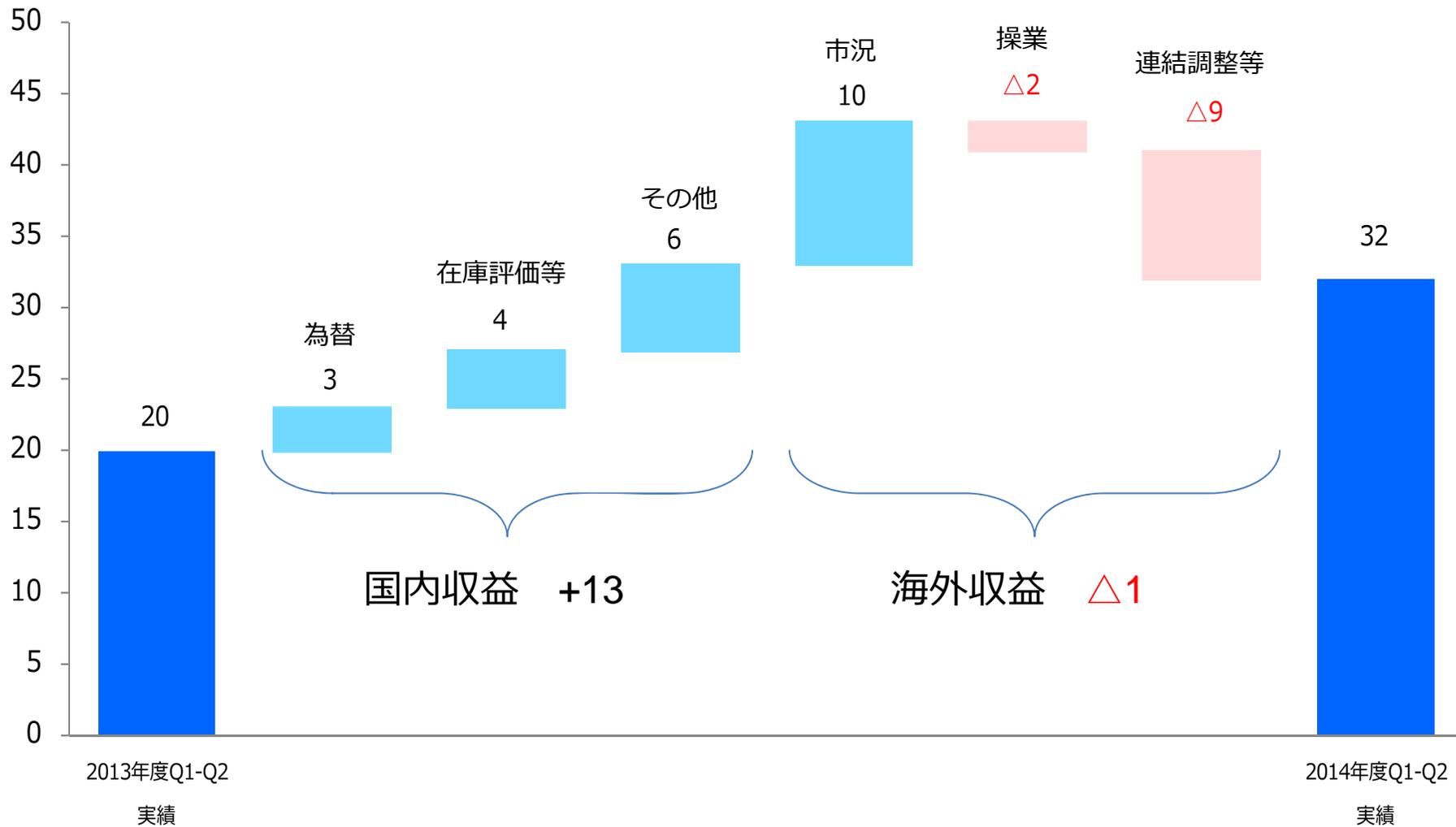
		2013年度 Q1-2 実績	2014年度 Q1-2 実績	差(実額)	差(%)	
市況	亜鉛(米\$/t)	1,850	2,192	342	18	
	鉛(米\$/t)	2,079	2,139	60	3	
	銀(米\$/toz)	22.2	19.7	△2.6	△11	
	円/米\$	98.9	103.0	4.1	4	
	米\$/豪\$(1-6月)	1.01	0.92	△0.09	△9	
製錬セグメント 主要製品販売量	亜鉛製品(千t)	58.6	51.6	△7.0	△12	
	鉛製品(千t)	42.7	41.2	△1.6	△4	
	電気銀(t)	182	213	31	17	
資源セグメント CBH社関連(1-6月)	粗鉱処理量(千t)	エンデバー	357	344	△13	△4
		ラスブ	341	267	△74	△22
		計	697	610	△87	△12
	亜鉛精鉱生産量(千dmt)	エンデバー	46.1	41.2	△4.9	△11
		ラスブ	27.3	18.9	△8.4	△31
		計	73.4	60.1	△13.3	△18
	鉛精鉱生産量(千dmt)	エンデバー	24.6	24.7	0.1	0
		ラスブ	15.2	8.9	△6.3	△41
		計	39.8	33.6	△6.2	△16

前年同期比較(収支)

			2013年度 Q1-2 実績	2014年度 Q1-2 実績	差(実額)	差(%)
収支	売上高(億円)	製錬	404	406	2	0
		資源	77	93	16	21
		電子部材	34	36	2	5
		環境・リサイクル	23	28	5	21
		その他	57	40	△17	△30
		計	596	603	8	1
	営業利益(億円)	製錬	16.9	27.2	10.4	61
		資源	△12.0	△12.6	△0.6	-
		電子部材	4.8	5.4	0.5	11
		環境・リサイクル	4.5	7.7	3.2	70
		その他	4.6	3.8	△0.9	△18
		調整額	0.9	0.2	△0.6	△74
		計	19.8	31.8	12.0	61
		経常利益(億円)	5.2	35.5	30.3	581
		当期利益(億円)	△4.9	18.9	23.8	-

(3) 営業利益増減分析

単位：億円



2. 財務の状況

(1)貸借対照表(資産の部)

単位：億円

			2014年3月末 実績	2014年9月末 実績	差(実額)
流動資産	現金・預金		115	86	△29
	受取手形・売掛金		136	158	22
	たな卸資産		349	343	△6
	その他		25	35	10
	計		625	622	△3
固定資産	有形固定資産		520	513	△7
		内CBH社関係 (豪\$百万表示)	160 (171)	156 (163)	△4 (△8)
	無形固定資産		244	253	9
		内CBH社関係 (豪\$百万表示)	240 (257)	249 (260)	9 (3)
	投資その他		61	62	1
計		825	827	2	
資産 合計			1,450	1,449	△1

貸借対照表(負債・純資産の部)

単位：億円

			2014年3月末 実績	2014年9月末 実績	差(実績)	
負債の部	支払手形・買掛金		71	74	4	
	借入金	CP	-	20	20	
		短期		225	244	19
		長期		384	312	△73
		借入金 計		609	576	△33
	その他負債		173	184	11	
	計		852	834	△18	
純資産の部	株主資本	資本金	146	146	-	
		資本剰余金・自己株式	99	99	△0	
		利益剰余金	227	244	17	
		株主資本 計	472	489	17	
	その他包括利益累計額		126	127	1	
	計		598	615	17	
負債・純資産 合計		1,450	1,449	△1		

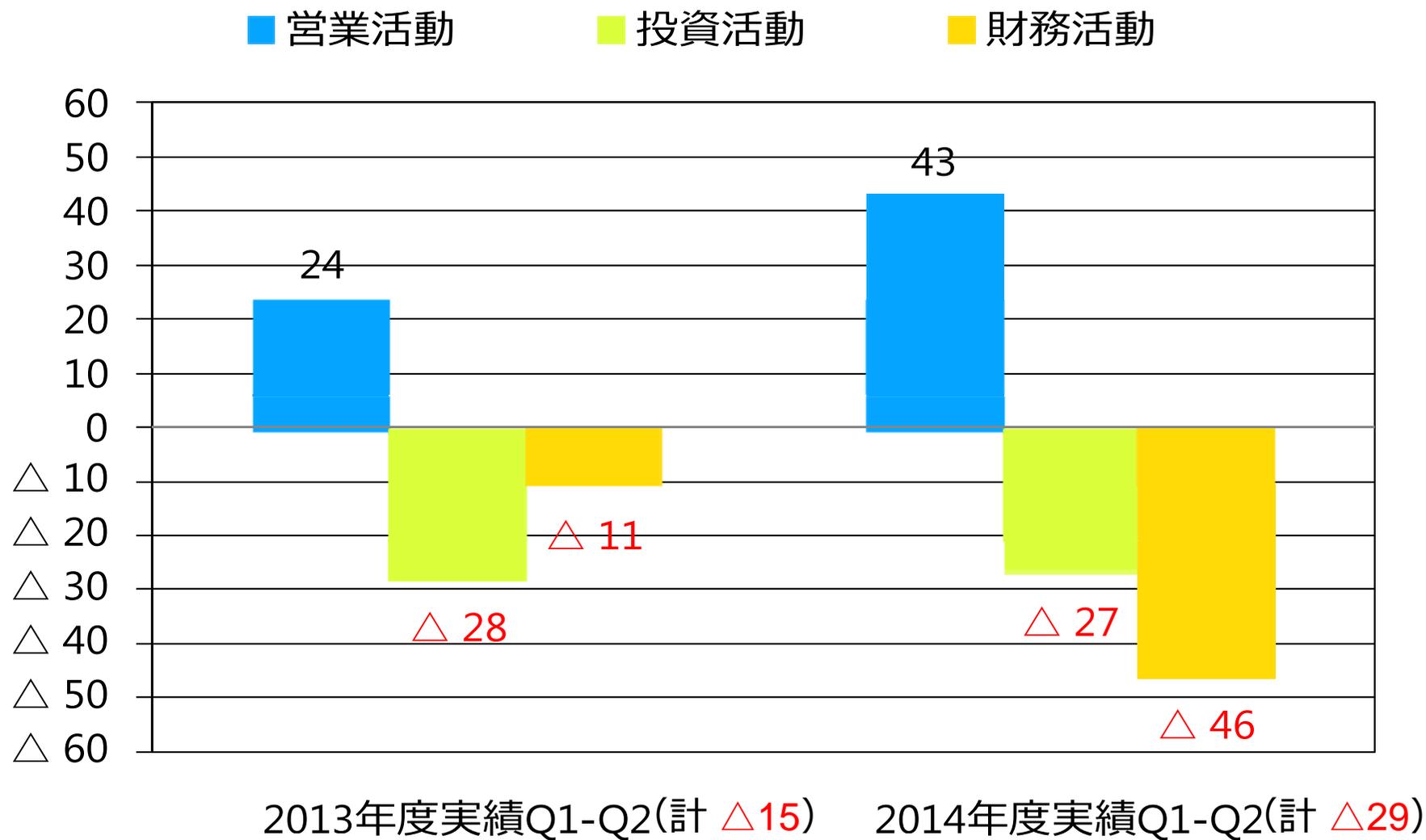
(2)主要財務指標の変化

	2013年度 Q1-2		2014年度 Q1-2
自己資本比率	39.7%		42.5%
D/Eレシオ	1.1倍		0.9倍
*当期純利益/自己資本 (ROE)	△1.7%		6.2%
当期純利益/売上高	△0.8%		3.1%
売上高/総資産	0.8回転		0.8回転
総資産/自己資本	2.5倍		2.4倍

*年換算値

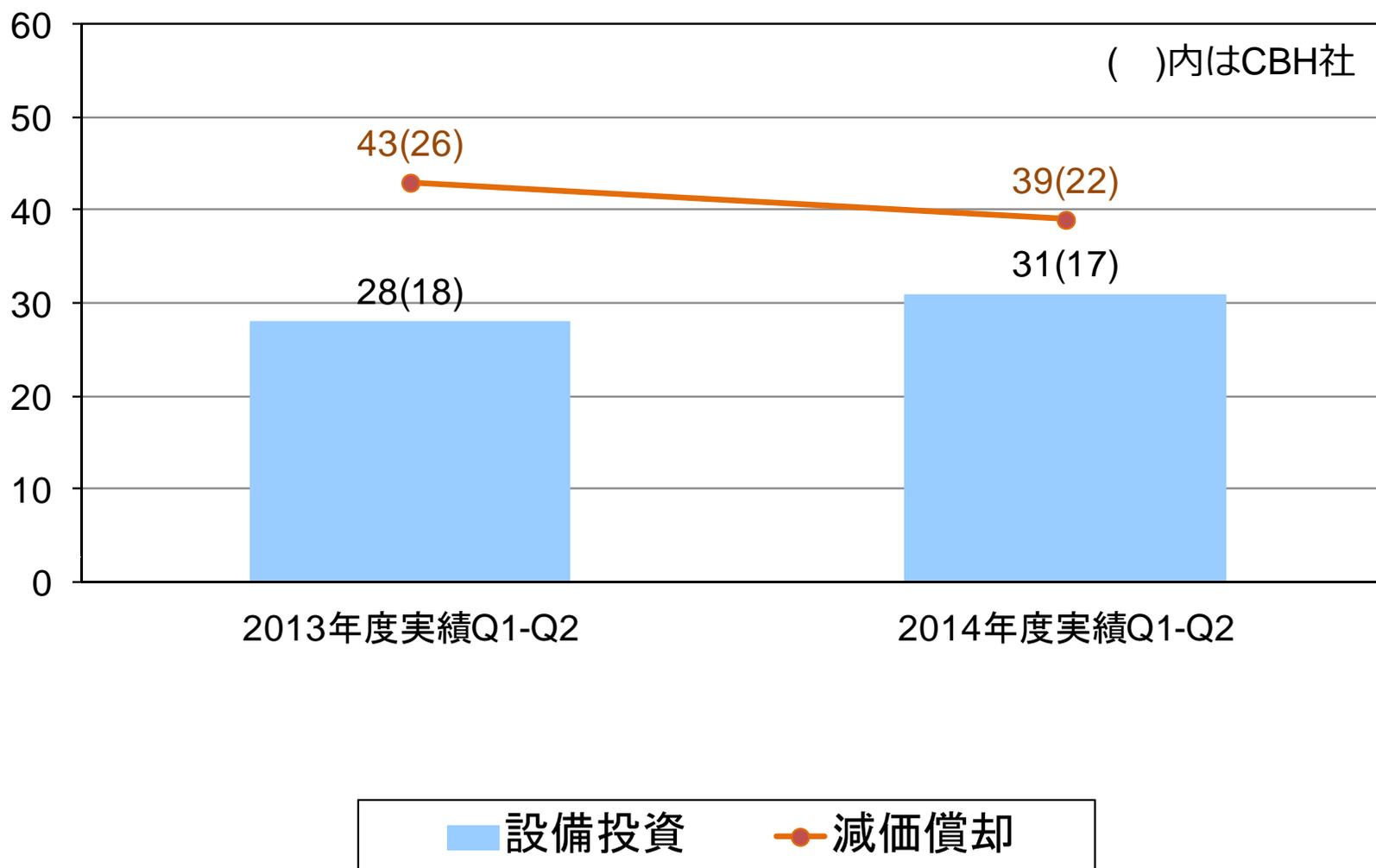
(3)キャッシュ・フローの推移

単位：億円



(4)設備投資・減価償却の推移

単位：億円



II. 2014年度 連結業績予想⇒「今回据置」

1. 感応度

2014年度試算			
	変動幅	連結営業利益影響額	内CBH社
亜鉛	\$10/t	¥75百万	豪\$500千
鉛	\$10/t	¥40百万	豪\$360千
円/米\$	1円/米\$	¥85百万	-
米\$/豪\$	1%	豪\$2百万	同左

Ⅲ. 資源セグメントの概況

1. セグメント利益の状況

公表ベース比

5/9公表ベース比△14.1億円

⇒内、CBH社営業利益△8.2億円(内、市況等他律要因△5億円強)。

①エンデバー鉱山

公表ベース比+2.0億円(内、市況等他律要因△3億円弱)。

2013年来、採掘・精鉱生産は計画通りに推移。

2013年から取り組んでいるコスト削減策も寄与し、コストが低減。

1-6月期は2.3億円の営業利益。

粗鉱品位、歩留まり上ブレ等、生産性改善による影響は+5億円弱。

利益(億円)		5/9公表ベース	2014Q1-2実績	差(実額)
CBH社営業利益	エンデバー鉱山	0.3	2.3	2.0
	ラスプ鉱山	1.4	△9.3	△10.7
	その他	△0.2	0.3	0.5
	計	1.5	△6.7	△8.2
*連結調整他		0	△5.9	△5.9
資源セグメント利益		1.5	△12.6	△14.1

* 連結調整他：親子間決算期ずれ調整分等

②ラズプ鉱山

公表ベース比△10.7億円(内、市況等他律要因△2億円強)。

2015年からの最適操業態勢に向け、2013年10月から15ヵ月にわたる7割操業態勢継続中。当初採掘予定の高品位鉱体(Crown Pillar)の沈下が判明し、坑内掘り採掘困難に⇒他の高品位鉱体(525)への坑道掘進・品位調査を進めるも酸化鉱が多くプラント処理困難に⇒低品位鉱体(Western Mineralization)での粗鉱採掘が中心に。その結果、1-6月は△9.3億円の営業赤字。他律要因を除くと、粗鉱品位・歩留まり等生産性悪化により公表ベース比未達となった。

③連結調整他

公表ベース比△5.9億円(内、決算期ずれ調整約△5億円)。

公表ベース前提は7-9月(加算月)にラズプ鉛出荷あり、亜鉛出荷なしで約+2億円。

実績は7-9月(加算月)にラズプ鉛出荷なし、亜鉛出荷あり⇒マージン差の影響(マイナス)で約△3億円。結果として、決算期ずれ調整が公表ベース比約△5億円。

利益(億円)		5/9公表ベース	2014Q1-2実績	差(実額)
CBH社営業利益	エンデバー鉱山	0.3	2.3	2.0
	ラズプ鉱山	1.4	△9.3	△10.7
	その他	△0.2	0.3	0.5
	計	1.5	△6.7	△8.2
*連結調整他		0	△5.9	△5.9
資源セグメント利益		1.5	△12.6	△14.1

前年同期比

前年同期比△0.6億円

⇒内、CBH社営業利益+8.9億円(内、市況等他律要因+10億円強)。

①エンデバー鉱山

前年同期比+5.0億円(内、市況等他律要因+8億円弱)。

粗鉱品位、精鉱品位(ともに銀)の悪化による影響は△2億円強。

②ラズプ鉱山

前年同期比+3.8億円(内、市況等他律要因+2億円強)。

粗鉱品位悪化なるも減産に伴う出荷量調整により約+1億円の効果。

利益(億円)		2013Q1-2 実績	2014Q1-2実績	差(実額)
CBH社営業利益	エンデバー鉱山	△2.7	2.3	5.0
	ラズプ鉱山	△13.1	△9.3	3.8
	その他	0.2	0.3	0.1
	計	△15.6	△6.7	8.9
*連結調整他		3.6	△5.9	△9.5
資源セグメント利益		△12.0	△12.6	△0.6

③連結調整他

前年同期比△9.5億円(内、決算期ずれ調整△8億円弱)。

前年同期は、7-9月(加算月)にラсп鉛出荷あり、約+5億円弱。

当期は、7-9月(加算月)にラсп鉛出荷なし、亜鉛出荷あり⇒マージン差の影響で約△3億円。

結果として、決算期ずれ調整が前年同期比約△8億円弱。

利益(億円)		2013Q1-2 実績	2014Q1-2実績	差(実額)
CBH社営業利益	エンデバー鉱山	△2.7	2.3	5.0
	ラсп鉱山	△13.1	△9.3	3.8
	その他	0.2	0.3	0.1
	計	△15.6	△6.7	8.9
*連結調整他		3.6	△5.9	△9.5
資源セグメント利益		△12.0	△12.6	△0.6

2. マリーブル探査プロジェクト

- ・2012年からCBH社はPeel Mining社とのジョイントベンチャーであるマリーブル地区探査プロジェクトに関与。

CBH社は、総額8.3百万豪\$を拠出し、2014年4月に50%の権益獲得。

- ・現在までの探査結果では、銅品位が2~3%、鋳量が4百万t程度の見積もり。鋳山開発としては鋳量がまだ不足しており、追加鋳量確保目的に探査継続中。

- ・今後実施する探査内容などの詳細につき、Peel Mining社と協議中。

3. ラスプ鋳山の高品位鋳アクセス状況

- ・高品位鋳たるMain Lode開発(探査・坑道掘進)は着実に進捗しており、2015年以降は一定量の高品位鋳を採掘できる態勢を整備中。

- ・現在、CBH社において2015年1月から始まる新中期経営計画(3ヶ年)を策定中であり、その中に詳細な採掘計画を織り込む予定。